

中学校段階のフォークダンスの授業における学習者の認知

— タブレットを用いインターネットで調べたフォークダンスを踊ることを中心にした協働学習 —

松 本 奈 緒

Student's conception of folk dance at junior high school PE class : cooperative learning their own choice investigating through PC tablet with internet

MATSUMOTO, Naho

Abstract

The purpose of this study was to grasp actual state of learner's conception in folkdance unit through balloon method at a junior high school. Subjects were 36 7th grade students, who were 17 boys and 19 girls. For analyze conception of students, as method balloon method was used in which students fill out free description, and it was taken after every dance class. This was analyzed from one dance researcher who working at University with ensuring trustworthiness member check was conducted. As a result 921 descriptions emerged. This result suggest that student recognized dance variety, particular characteristic, cultural depth based each ethnic, folklore; cooperation feeling and cooperative learning from playing a role in group and given an advice from other person or group; organic learning activities with clear aim and problem solving; positive feeling for learning folkdance although feeling some difficulties.

Key words : student's conception, folkdance, cooperative learning, ICT, balloon method

キーワード：学習者の認知，フォークダンス，協働学習，ICTの使用，ふきだし法

1. 諸言

構成主義において、学習者の認知の重要性が指摘されている。構成主義において、学習者の学習概念は既存の獲得知識の上に構築されるものであり、学習者のこれまでの経験から得た知識によって学習できる内容が異なることが指摘されている（Rovegno and Dolly, 2006；Solomon, 2006）。学習の成果を測るために、従来、質問調査紙が用いられてきたが、質問調査紙は調査紙作成者の意図により設問が設定され、回答者の回答の方向性を無意識に誘導する可能性があることが指摘され、より本質的な評価（オーセンティックアセスメント）や学習者の学習に対する受け取り方についてのエビデンスを提出することの重要性が指摘されている。

フォークダンスは、学習指導要領によると、「踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて特徴的なステップや動きと組み方で踊ることをねらいとしている。また、フォークダンスには、伝承されてきた日本の『民踊』や外国の『フォークダンス』があり、それぞれの踊りの特徴をと

らえ、音楽に合わせてみんなで踊って交流して楽しむことができるようにすることが大切である。」（文部科学省，2008，p.120）とその特性が示されている。このようにフォークダンスはダンス領域の一部として体育カリキュラムの中に位置づいている（池田，；松本，2010）。渡辺（2015）は、「フォークダンスは伝承されてきた日本の民踊や外国のフォークダンスの特徴をとらえて、基本的なステップを身につけて感じを込めて踊り、みんなで交流して楽しむことが大切である。これらを通して、風土や風習、歴史など文化的背景を理解し、日本や世界の伝統的な文化を尊重する態度も育てる。」（渡辺，2015，p.175）とその特性について述べている。民俗舞踊は各地域に伝承される複雑な動きや形式を伴ったものであるが、学校教育で取り上げる場合、外国や日本の国や地域で継承された民俗舞踊を学校教育で用いやすいように簡略化、教材化したものを実施している。しかし、学校教育分野でのフォークダンスの系統的な学習計画の実施は少ないことが指摘（渡辺，2015）されており、小学校

を対象とした全国的調査においてその実施率は55.6%であり、実施している学校の中でも体育以外の時間に取り扱う例(59.5%)も多い(国枝, 2005)。その理由として定型のダンスであり習得の過程で楽しさを味あうことが難しいこと、学習者が自ら考え創意工夫する場面が少なく興味・関心を持ちづらいこと、単元計画を作るに際し教師が実態に合わせてフォークダンスを選び、習得し、指導法を考える教材研究に時間がかかることが挙げられている(渡辺, 2015)。

それでは、先行研究では、フォークダンス(民俗舞踊)について、何が明らかとなっているのか。民俗舞踊の動きや構造、形式の分析、フィールドワークによる報告(安藤 2006; 武田, 2005; 松下, 2005; 森下ら, 2006)や教育実践報告(中森, 1990)、教員を対象とした学校教育での実施に関する全国調査(国枝, 2005)は行われているが、教育においてこれを取り上げ学習者に焦点化した研究報告は少数である。金城(1975)は、大学生を対象とし、質問調査紙法を用い琉球舞踊の鑑賞をした印象から舞踊の美的構造を明らかにすることを試みた。浅川(2000)は一般人を対象とし、社会人サークルの日本の民俗舞踊の学習における自由記述の感想文やインタビュー、質問調査紙法を用いて調査を行い、活動を通して身体意識が深まり、体への気づきを伴って動きを自分のものにしていく、体が「型」の習得から意志による操作を離れて動き出す、ともに踊ることから他者との共生感が生まれることを明らかとした。松本(2010, 2012)は大学生を対象に秋田の盆踊りの学習をDVDやモーションキャプチャー技術を応用した学習支援装置を用いて行い、その動きの熟達度と学習者の認知の変化について明らかにした。この研究の結果、練習前と練習後の動きを比較した際により熟練者の動きに近くなったこと(松本, 2010)、学習が進むにつれて学習者はより詳細に動きの特徴を捉え、意識できるようになったこと(松本, 2012)が明らかとなった。しかし、フォークダンスを学校教育分野において実施し、学習者の認知に焦点化した研究、その認知がフォークダンスの特性とどのような関係があるのか論じた研究は皆無である。そこで本研究の目的として、中学生を対象とし、単元化したフォークダンスの学習を通じ学習者がどんなことを認知したのかを明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

2-1. 研究の手続き, 研究対象者, 分析方法

学習者の学習を通じた概念形成に関する認知の研究は、膨大なソフトデータの分析(Solomon, 2006)の質的分析によって行われる。本研究では質問調査紙法を用い、ふきだし法によって学習者の自由記述を採取し分析

の対象とした。ふきだし法については、元来数学教育の分野において学習者の思考プロセスを知るために用いられた方法(亀岡, 1992, 1996, 2012; 吉野他, 2003)であるが、学習者の認知や概念形成を知るために松本が改良し体育分野に適用した(松本, 2010, 2015, 2016, 2017)ものである。この研究は質的研究の手法を踏襲するものであるため、学習者自身の視点を尊重し自由回答させる。

分析方法としては、学習者がふきだし法に回答した内容をカテゴリー化し分類した。対象者は中学校1年生であり、全36名(男子17名, 女子19名)であった。データ採取については、中学校におけるフォークダンスの単元において、毎時間授業実施後に行った(資料1)。調査紙は中央に踊っている学習者の写真、その周りにふきだしが複数個記入され、「今日のダンスを振り返り気づいたこと、学んだことをなるべく多く書きましょう。(書ききれなかった場合はふきだしを増やして書き込みましょう)」と文章で指示を記したものであった。分析方法は質的研究の方法にのっとり、ふきだし法にみられる記述を内容毎に分類しラベルをつけ因子とした。また共通項のある因子はまとめ、さらに上位の傘概念でラベルをつけた。なお、記述内容が長い場合は意味毎に区切り、複数のカテゴリーへと分けて分類した。分析者はダンスを専門とする大学の研究者1名であり、1名が行った作業をメンバーチェックにより実践者にも見せ、気づいた点を指摘・修正する方法を用いた。

資料1 ふきだし法調査用紙

組 番 氏名 () 月 日

1. 今日ダンスの復習を振り返り気づいたこと、学んだことをなるべく多く書きましょう。
(書ききれなかった場合はふきだしを増やして書き込みましょう)

フォークダンスの印象が変わりました。

簡単な動きで、誰かが楽しめるダンスだと思いました。

とても楽しく、体が温まり、仲も深まった感じがしました。

テンポと動きを合わせるために、体がリズムを感じる必要が大切だと感じました。

身近な友達とも行ってみたいです。

ご協力ありがとうございました

2-2. 単元計画

全7時間一単元のフォークダンスの単元である(表1参照)。1時間目は外国のフォークダンスを踊る, 2時間目は日本のフォークダンスを踊る, 3~5時間目は自分達で踊りたいフォークダンスを調べ、練習する, 6時間目は兄弟チームで見せ合いとアドバイスを, 7時間目は発表会を行った。1, 2時間目は教師主導で, 3~7時間目はグループでの自主的活動を中心に行った。最初の1, 2時間目に外国のフォークダンスと日本のフォークダンスを対比的に学習することでそれぞれの踊りの特徴が明確になるように意図し学習計画を行った。外国のフォークダンスとしては, じゃんけんで負けたものが勝ったものの後ろにつきながら列になっていくジェンカ(フィンランド), 円になって踊るタタロチカ(ロシア), フロアに広がって行うトップオブザレインボー(アイルランド), 2人組や4人組で手や腕を組み合わせで踊るスケッタースクエアダンス(アメリカ)を行った。日本のフォークダンス(民踊)としては, 身振り手振りで歌詞内容を示す振付で構成される炭坑節(福岡県), 円になってきびきびした動きで踊る八木節(群馬県), 三線の音階で構成される特徴的な曲調で円になって踊る谷茶前(沖縄県), 地元秋田県の盆踊りとしてゆっくりな曲に合わせて優美に踊る角間川盆踊り(秋田県)を行った。学習するフォークダンスを選定する際には, 形式の違いや曲調やスピード, 地域性の異なるものを選定した。3時間目以降はタブレットを用い, インターネット(YouTube等)で自主的にフォークダンスを調べ, 調べたものの中から自分達が踊りたいフォークダンスを選びグ

ループでの発表会に向けて練習を行う活動を行った。6時間目には, 兄弟チームでの踊りの見せ合いとアドバイス, お互いにタブレットに撮影した映像を確認しながら次への目標を決定する活動を行い, 協働学習の中で活動の課題をより明確にする活動を行った。そして, 7時間目には, 授業の参加者全員の前での発表会を行った。

3. 結果

研究の結果, 全921の記述が採取できた。分析の結果, 24の大因子, 74の小因子が明らかとなった(表2参照)。大因子である情意(n=64)は, 楽しさ, 笑顔, 面白い, 好きになった, 気軽, 楽しむと楽, 緊張・不安, 恥ずかしがらず踊る, 印象が変わったから構成された。例えば, 「これまでやってきたことがないダンスを踊ることができて楽しかった」(楽しさの小因子), 「笑顔で踊り合えたので, 緊張もふっとび, 楽しい雰囲気になり良かったです」(笑顔の小因子)等, 活動に対する肯定的な感情に関する記述がみられた。一方で, 「大勢の前だと緊張する→動きが小さくなった」(緊張・不安)等の否定的な感情に関する記述も少数であるがみられた。大因子である覚える(n=67)は, 覚える, 覚えると楽しい, 覚えるのは簡単, 覚えるのが難しいができた, 覚えるのは難しい, 振付けが難しい, 覚えていない, 振りを忘れる, 前に行ったから分かるから構成された。例えば, 「分からないところもみんなで踊っていたのでみんなを見て覚えることができました」(覚えるの小因子), 「振りつけを最後までだいたい覚えられた」(覚えるの小因子), 「すぐに覚えて楽しく踊ることができました」(覚えるの

表1 フォークダンスの単元計画

1時間目	2時間目	3～5時間目			6時間目	7時間目
外国のフォークダンスを踊る	日本のフォークダンスを踊る	自分達で踊りたいフォークダンスを調べ、練習する			兄弟チームで見せ合いとアドバイス	発表会
1. ねらいの確認 2. 導入 ジェンカで最後ジャンケン 3. 外国のフォークダンスを踊る ・タタロチカ ・トップオブザレインボー ・スケッタースクエアダンス 4. 学習カード（ふきだし法）の記入	1. ねらいの確認 2. 前回の復習 ・ジェンカ ・タタロチカ ・トップオブザレインボー 3. 日本の民踊を踊る ・炭坑節 ・八木節 ・谷茶前 4. 地域の民踊を踊る ・角間川盆踊り 5. 学習カード（ふきだし法）の記入	1. ねらいの確認 2. 前回の復習 ・炭坑節 ・八木節 ・谷茶前 3. グループ作り 4. インターネットでフォークダンスを調べる 5. 学習カード（ふきだし法）の記入	1. ねらいの確認 2. インターネットでフォークダンスを調べる、調べたフォークダンスを練習する 3. 学習カード（ふきだし法）の記入	1. ねらいの確認 2. 調べたフォークダンスを練習する 3. 学習カード（ふきだし法）の記入	1. ねらいの確認 2. 調べたフォークダンスを練習する 3. 兄弟チームで見せ合い（お互いタブレットで撮影し合う）、アドバイスを行う 4. 撮影した映像やアドバイスを参考にし今後の課題を決める 5. 学習カード（ふきだし法）の記入	1. ねらいの確認 2. 調べたフォークダンスを練習する 3. 発表会 4. 学習カード（ふきだし法）の記入

は簡単な小因子)等, 振付けを覚えることそのものや肯定的に捉える記述がみられた。一方で「いろいろな動作を覚えるのが非常に難しかった」(覚えるのは難しいの小因子)等, 覚えることを否定的に捉える記述もみられた。

大因子であるダイナミクス (n=21) は, ダイナミクス, 全身を使う, 体力, 体が温まる, 体が軽い, 疲れるの小因子で構成された。例えば, 「意外と動きがはげしかった」(ダイナミクスの小因子), 「動きを大きく」(ダイナミクスの小因子), 「全身を使ったダンスが多い」(全身を使うの小因子), 「思ったより疲れる」(疲れるの小因子)等の記述がみられた。大因子である動き (n=73) は, 動きが多い, 動きの種類, 動きが複雑, 手の動き, 手や足の動き, 手先足先, ステップが多い, 移動, くり返し, 振付け, 踊りの長さ, アレンジ・簡略化の小因子で構成された。例えば, 「動きが多い」(動きが多いの小因子), 「動きが複雑なものがあって大変だった角間川の盆踊りは足や手の動きが複雑」(動きが複雑の小因子), 「足と手がそろうときれいに踊れる」(手や足の動きの小因子), 「同じような動きを何度もくり返している」(くり返しの小因子)等動きの種類や形式についての記述がみられた。また, 「少しアレンジした」(アレンジの小因子), 「難しいところを簡単にして踊りやすく工夫することができました」(アレンジの小因子)等アレンジして動きを工夫することについての記述もみられた。大因子である動きの特徴は, はっきりした動き, 案外長い, 似ている, 社交ダンスとの類似の小因子で構成される。例えば, 「他のグループでは, はっきりとした動きのフォークダンスが人気だと思った」(はっきりした動きの小因子), 「似ている動きがあった」(似ているの小因子)等の記述がみられた。大因子である動きの留意点 (n=67) は, こつ・留意点, 課題・改善案, 動きの自己観察と留意点の小因子で構成された。例えば, 「前より手の先を意識してできた」(こつ・留意点の小因子), 「回転しペアを変えるところをどうしたら上手くいくか話し合いをしてみた」(こつ・留意点の小因子), 「自分達の問題点を見つける事ができたのでよかった」(課題・改善案の小因子), 「タブレットで自分達が踊っている姿を見て、左右がバラバラな所や手をたたく位置が違ったりしていることが分かった」(動きの自己観察と留意点の小因子)

大因子である隊形・パートナーチェンジ (n=20) は, 隊形, 間隔, 2人組で踊る, ペアの踊り, 少人数でも踊れる, パートナーチェンジの小因子で構成された。例えば, 「踊る時に輪になったり横一列になったり色々な形があり面白かったです」(隊形の小因子), 「間隔を保つことが大切」(間隔の小因子), 「男女がまわりながら位置がずれるところを上手にできるようにしたい」(パー

トナーチェンジの小因子)

大因子である多様性・文化 (n=162) は, 多様性, 日本のと外国との違い, 日本らしさ, ダンスを通じて文化を知る, 独自性, 独特, 男女の違い, 奥深い, たくさんの踊りに触れたい, 動きの違い, 感じの違い, 踊りの由来の小因子で構成された。例えば, 「世界にはいろんなフォークダンスがあることを知った」(多様性の小因子), 「前回やった海外のフォークダンスは楽しい感じだけけど日本のフォークダンスは味があって良いなと思いました」(日本のと外国のとの違いの小因子), 「日本の様々な独特の踊りを知ることができて良かった」(日本らしさの小因子), 「その地域独特な踊りがあった」(独自性の小因子), 「踊り方の由来を知りたい」(踊りの由来の小因子)

大因子である協力・協働 (n=139) は, そろうと達成感, 合わせて踊る, 協力・チームワーク, 交流, 協働, 役割分担, 自己成長, 教え合い, 他者のいい所, 見て話し合う, 絆の小因子で構成された。例えば, 「みんなで合わせて踊ることができとてもよかったです」(合わせて踊るの小因子), 「みんなで心をつにして踊ることができました」(合わせて踊るの小因子), 「ダンスは友達とのチームワークが深められたのではないかと思った」(協力・チームワーク), 「ダンスをすると友達と絆を深めることができた」(絆の小因子)。「グループで踊りについての色々な意見が出て面白かった」(協働の小因子), 「リーダーを中心にダンスを覚えることができた」(役割分担の小因子), 「友達からのアドバイスもあり改善点が見つかった」(教え合いの小因子), 「相手のダンスを見たら、私たちが踊ったダンスと違う良い部分をみつけることができました」(他者のいい所の小因子)

大因子である音楽性 (n=84) は, タイミング, リズム, テンポ, 音楽, 曲に合わせて踊るの小因子で構成された。例えば, 「リズムに合わせて遅れないようにすることが大切だと思いました」(リズムの小因子), 「テンポと動きを合わせるために体でリズムを感じる事が大切だと感じました」(リズムの小因子), 「音楽の特徴をとらえた動きを心がける」(音楽の小因子)「ロシアのダンスはどこか聞き覚えがあるのが多かった」(音楽の小因子), 「工夫して曲に合わせて楽しく踊りたい」(曲に合わせるの小因子)

大因子である興味 (n=12) は, 興味の小因子で構成される。例えば, 「今まで練習したこと以外のダンスや日本の踊りも踊ってみたい」(興味の小因子), 「前まではフォークダンスを踊る機会はあまりなかったけど、今回の授業で興味をもつことができた」(興味の小因子)の記述がみられた。

大因子である抱負 (n=2) は, 抱負の小因子で構成さ

表 2 ふきだし法記述因子および記述内容

N = 921

大因子 (数)	小因子 (数)	記述内容
情意 (64)	楽しい (42)	とても楽しい / みんなで楽しく踊ることができたと思う / これまでやってきたことがないダンスを踊ることができて楽しかった / 日本の踊りも楽しく踊ることができた / 前回到踊ったダンスをやった時に思い出しながらするのが楽しかった / はじめのころよりダンスの楽しさを理解できたと思います / 全部の回で楽しく進んで踊ることができました / この学習を通して踊りの楽しさを改めて実感しました等
	笑顔 (8)	みんな笑顔で楽しく踊ることができました / ダンスをするにつかれたけど笑顔になれた / 笑顔で踊り合えたので、緊張もふっとび、楽しい雰囲気になり良かったです / 全然上手にできなかったけど笑顔で踊ることができました等
	面白い (3)	面白い / アイヌの踊りが意外と面白くてよかったです等
	好きになった (1)	ダンスが好きになりました
	気陸 (1)	どんな人とても気陸に踊ることができる
	楽しむと楽 (1)	音楽が速いと大変だけど楽しむと楽に感じた
	緊張・不安 (6)	大勢の前だと緊張する→動きが小さくなかった / とても緊張したがいつも以上にうまく踊れた / 少し不安だった等
	恥ずかしがらず踊る (1)	恥ずかしがらずききっぱなしで踊っていました
	印象が変わった (1)	フォークダンスの印象が変わりました
	覚える (22)	分らないところもみんなで踊っていたのでみんなのを見て覚えてることができました / 知らない踊りでしたが先生の動きを見て覚えられました (少し) / だんだん覚えられてきた / 分からないところもみんなで踊っていたのでみんなのを見て覚えることができました / 振り付けを最後までだいたい覚えられた / 「タタロチカ」のふりつづきを覚えることができました / 今回はグループで動画を見ながら少しだけ覚えることができました / まずは覚えて、その後は楽しみながら踊れるように練習していきたい / がんばって覚えていく等
覚える (67)	覚える (7)	覚えてくると楽しい (3) / ダンスはしていると楽しくて慣れると面白くなった / 新しいダンスでしただがだいたい覚えて楽しくみんなで踊れました / 角間川盆踊りをテレビをみながら覚えるのは大変だったがおもしろかった / 日本の踊りはたくさんあって覚えることのできる踊りは少なかつたけど楽しかった
	覚えるのは簡単 (8)	すぐに覚えて楽しく踊ることができました / デンボはあれだけどふりつづきが少ないので覚えやすい / 民族の踊りは思ったより覚えやすい等
	覚えるのは難しいができた (3)	難しいふりもあつたけど少し覚えることができた / 見本を見てそれを記憶し自分で動いてみるのがとても難しかったですがしっかりと思い出して踊れました等
	覚えるのは難しい (5)	前に小学校で踊ったから少しは振りが分かった (ジェンカ)
	振付けが難しい (16)	動きが多くこんがらかってしまう / 動きのステップなど分かりづらくて難しかった / 難しいステップがあるがそこををよく見て覚えていきたい / 自分の動きがよく分からない等
	覚えていない (3)	花笠音頭をしっかり覚えられなかつた / ごまかしている部分があつた等
	振りを忘れる (2)	ちよっと左右どちらからふりをするのか忘れてしまっている時があつた / 順番を覚えていなかった
ダイナミクス (21)	前に行ったから分かる (1)	前に小学校で踊ったから少しは振りが分かった (ジェンカ)
	ダイナミクス (6)	意外と動きがはげしかった / 動きを大きく / 動きを大きくすると伝わりやすい等
	全身を使う (3)	全身を使つたダンスが多い / 体全体を使うとダンスがうまくできた
	体力 (4)	ダンスがとても体力を使うものだと分かりました / いい運動になる
	体が温まる (1)	とても楽しくて体が温まり中も深まった気がしました
	体が軽い (1)	意外と体力を使い踊る前と比べて気のせいか体が軽い気がした
	疲れる (6)	思ったより疲れる / 意外と疲れる等
	動きが多い (2)	動きが多い / 手よりも足がたくさん動く
	動きの種類 (2)	ジャンプや交差などもあつた / 横に向くということをやつた
	動きが複雑 (5)	動きが複雑なものがあつて大変だった角間川の盆踊りは足や手の動きが複雑 / 難しいステップを取り入れました等
動き (73)	手の動き (9)	手を前に押し出す動きが多かつた / 足より手をよく使って踊る曲があつた
		手をひねって恰好よく踊るものがある / 途中途中手をたたいたり水をすくうような感じだった等
	手や足の動き (11)	手だけでなく足もよく使うものが多かつた / 足の動きにも注意して踊りたい / 手拍子と足の移動のタイミングが一緒だと思つたがよく見ると手と足が遠かつたり足がクロスしながら動いていたので小さなところも気をつけたい等
	足先手先 (2)	足と手がそろふときれいに踊れる / 指先がそろっているが一つ一つの動きがわけられているとききれいな踊りになる
	ステップが多い (2)	最後の前に踊ったダンスはステップやスキップが多い曲だった
	移動 (1)	フォークダンスはソーラン節も移動することが分かつた
	くり返し (18)	同じような動きを何度もくり返している / たくさんのダンスを学んだがどれも同じ動きをくり返す部分があつた / フォークダンスは 10 ～ 20 秒ほどのメロディが永遠にくくり返される等
	振付け (7)	円になつてまわる 拍手→手を右から左→かけ湯的なふり→拍手 / 3 組で踊るシーンがある等
	踊りの長さ (1)	1 分間やることになつた 長いような短いような・・・(やっていると)
	アレンジ・簡略化 (13)	少しアレンジした / 難しいところを簡単にして踊りやすく工夫することができた / できる振付けを組み合わせて簡単にアレンジして踊ることができました / 最後の部分の決めポーズを工夫した
動きの特徴 (4)	はつきりした動き (1)	他のグループでは、はつきりとした動きのフォークダンスが人気だと思つた
	案外長い (1)	案外長い
	似ている (1)	似ている動きがあつた
	社交ダンスとの類似 (1)	最後に踊ったダンスが社交ダンスみたいだと思ひました
	こつ・留意点 (14)	前より手の先を意識してでできた / 腰を下げて踊ると格好良かった / 特徴をつかむとそれに合わせること上手く踊れると思つた / 回転しベアを変えるところをどうしたら上手くいくか話し合いをしてみたい / 女子役の人の手が男子役の人より上にするということも意識することができました等
	動きの留意点 (67)	

隊形・パート ナーチェンジ (20)	課題・改善点 (51)	自分達の問題点を見つけてきたのでよかった／交流会を通して、自分達の良い所や改善点を詳しく知れて良かった／回っている時の手の形がまだできていないので次はがんばりたい／次は細かいところ（足の動きや手の組み方）を中心に頑張りたいです／全体的にごちゃごちゃしてる等
	動きの自己観察と留意点 (2)	タブレットで自分達が踊っている姿を見て、左右がバラバラな所や手をたたく位置が違ったりしていることが分かった等
	隊形 (6)	踊る時に輪になったり横一列になったり色々な形があり面白かったです／一列に並んだり円になったりある「形」になっておどる／前に進んだり2人で組になったり輪になったりいろいろいる踊り方のスタイルがありおもしろいと思いました等
	間隔 (2)	間隔を保つことが大切／一定の間隔をとって同じ足の幅で踊ること
	2人組で踊る (1)	調べていると2人で踊るものが多かった
多様性・文化 (162)	ペアの踊り (2)	ペアで踊った方が曲全体を華やかにしているのと踊っていて感じました／ペアを作って踊るとより面白くなった
	少人数でも踊れる (1)	フォークダンスは少人数でも踊れることが分かりました
	パートナーチェンジ (8)	男子女子で踊るダンスでペアが変わっていく踊りでした／男女がまわりながら位置がずれるところを上手にできるようにしたい／回転しながらペアを変える所もスムーズにできるようになった等
	多様性 (46)	世界にはいろいろなフォークダンスがあることを知った／フォークダンスには様々な種類があることが分かった／知っているフォークダンスも知らないフォークダンスもおもしろかった／外国のフォークダンスには思ったより種類があって驚き！！／踊りの動き方に違いがあった
	日本のと外国のとの違い (50)	その国の中にもそれぞれ別の地方で違ったのがあった 例) 日本－アイヌの民族舞踊、盆踊り／フォークダンスはたくさん種類やリズムがあり、とても楽しかったです等
日本らしさ (18)		日本の踊りは外国より動きがゆっくりだった／日本の踊りはがちがちで外国のは常に動いている／日本は繊細な感じ外国が雑っていうかおおざっぱ／外国と日本のフォークダンスはリズムも速さも反対でした／外国のフォークダンスより日本の方が難しかった／日本のダンスはみんなにているが外国のダンスはあまりにいていない／前回やった海外のフォークダンスは楽しい感じだけれど日本のフォークダンスは味があって良いなと思いました／私は外国の踊りよりも日本の踊りの方がふりが少ないので簡単だと思いました／外国と日本の踊りの違いを実際に踊り実感することができました等
	ダンスを通じて文化を知る (1)	ダンスは音楽と動きで日本や外国の文化を知ることができる
	独自性 (26)	その地域独特な踊りがあった／その土地の特徴が表れていたと思っただ／日本のフォークダンスでもその地域や県によって踊りが全然違うのだと分かりました／地域や場所の文化が違くと踊りも違うのだと思いました
		沖縄の踊りは少し特徴的でした／炭坑節はシーンが想像できる踊りで面白かった／他の班のロシアの踊りの曲調からよりスロバキアの踊りとの違いが伝わってきました等

協 力・ 協 働 (139)	独特 (6)	歌い方が独特だった／謎の動きが多い／その国の文化として服も個性的だった
	男女の違い (4)	男子と女子の振りの違いがあった／スロバキアの踊りを踊ることにして男役と女役があることが分かりました
	奥深い (1)	角間川の盆踊りは奥が深かった
	たくさんさんの踊りに触れた (2)	もともとたくさんさんのダンスに触れてみたいと思います／他の踊りも踊りたい
	動きの違い (2)	ジェンカは足ををつかっただけとタタロチカは体全体を使った／ジャンプなどがない
	感じの違い (3)	ダンスによって激しいものもあればゆっくりのものもあった／男子の中ではアイヌが一番地味な感じがする／花笠踊りが一番激しい振り
	踊りの由来 (5)	踊り方の由来を調べてみたい／踊り方の由来を知りたい／フォークダンスはなぜ生まれたのか知りたい／いろんな踊りの踊り方の由来を調べたい等
	そろそろ達成感 (1)	ダンスがみんなとそろそろ達成感があった
	合わせて踊る (23)	みんなに合わせて踊ることができたとてよかったです／みんなで動きを合わせることとまとまって見えて、きれいなダンスになる／息が合えば上手くみえました／みんなで心を一つにして踊ることができました等
	協力・チームワーク (36)	みんなで楽しく協力して取り組むことができた／チームワークが大切／ダンスは友達とのチームワークが深められたのではないかいと思う／相手と動きを合わせるには心が通じなければならぬ！／ということが分かりました／クラスで踊るとさらに盛り上がり／大人数で踊るのが楽しい／四人のグループで団結して踊りを成功させたいです
交流 (3)		たくさんさんのダンスを踊って友達と楽しくまた「輪」が広がったと思いましたが／タタロチカはみんなで丸くなって踊るのでみんなと仲良くなれそう
	協働 (8)	グループで踊りについての色々な意見が出て面白かった／グループで頑張ろうとすればするほどどんどん楽しくなって頑張れた／グループの人と上手く踊れるように工夫するなど頑張りたい／友達と考えを出し合っでこの部分を踊るのか決めるが協力してできた等
	役割分担 (2)	リーダーを中心にダンスを覚えることができた等
	自己成長 (4)	楽しくがんばろうと思っただけで自分自身も成長できてよかった／覚えることも踊れるようになることも、細かい所をチェックすることでもとても良いダンスができるようになった等
	教え合い (23)	友達と教え合い支え合えようまくできる（楽しく、笑顔で）／友達からのアドバイスもあり改善点が見つかった／他のグループによいたアドバイスが伝えられることができた／相手のチームからもらったアドバイスを生かしてがんばります／新たな課題が他のグループのおかげで発見できてよかった／みんなで教え合いながら、ダンスをやることで、より「楽しむ」ということができました等
	他者のいい所 (25)	相手のダンスを見たら、私たちが踊ったダンスと違う良い部分を見つけることができました／他のグループの発表を見てたくさん工夫が凝らされているなあと感じた／相手のグループの良い所をたくさん見つけることができた／B組のオクラホマミックスの完成度がすごかった／他の組の踊りも見で参考になることがあった等

決定 (28)	踊るもの決定 (28)	グループ内で何を踊るか決められた / 「コロボチカ」というロシアのダンスを踊ることにしました / スロボキアの踊りをグループの皆と踊るのが楽しみです / アイヌ民族舞踊に決定 / 日本音頭を踊ることにしました等
見て踊る (5)	映像を見て踊る (4)	映像を見て少しずつ踊ることができた / 動画を見て覚えるのは大変だったが友達と踊るのが楽しかった等
	スコア誌をみて踊れる (1)	スコア誌でも踊れるようになったので良かったです
練習 (28)	練習 (27)	練習の積み重ねを大切にしていきたいです / 難しい踊りも何回も練習してみんなでそろえるようにしたいです / 家でも少し練習しておこうと思った / 「カリンカ」を何度も練習し上達しました / 今回は踊りの細かい所を中心に練習できた / 不真面目な人がいてはかどらなかったが自分は覚えられた等
	前より上手くなる (1)	日本のダンスを前より上手く踊ることができました
	発表・達成 (56)	全体での発表では練習の成果を発揮した / 皆に見られて緊張したけどしっかりと踊れた / みんなで楽しくフォークダンスを発表できました / 発表の時も堂々と踊るようにしていきたいです等
	できばえ (41)	そこそこ満足のできる踊りができてよかった / ダンスはほとんど完璧に踊ることができました / 今日の良い発表ができなかった / 軽快に踊れた特に戻る所良かったです / 前回よりはうまく踊ることができました / 前回よりも本格的に踊ることができた / 練習の成果を発揮することができました / 特にペアがかかわるところや手や足の動かし方が上手くなりました等
	やりがい・達成感 (5)	今までフォークダンスを続けてきてやりがいを感じました / まとめということでしたっさり意識してがんばれた / しっかりとやってきたことを発表して、やりきることができました
鑑賞 (5)	鑑賞 (5)	相手グループの踊りの特徴を踏まえながら見ることでできました / 友達の発表を見て、回る方向や手をたたく順番がそろっていて、見ている方も楽しい気持ちになりました
応援 (6)	手拍子や声で応援 (6)	他のグループ発表でも手拍子などして盛り上げることができました / 他の人がもってあげてくれた等
	体験 (2)	普段やらないことをやってみるのが楽しかった
	実施と発見 (1)	見て学ぶだけでなくやることで新たな発見がみつけられました
復習 (1)	返り (1)	ウォーミングアップではみんな楽しんでみながら今までやってきたことを振り返ることができました
合図 (2)	合図 (2)	合図が必要 / 1人合図を言う人も手をたたくことが必要だと思った
かけ声や小道具 (7)	大きな声や音 (5)	声を出して楽しく踊りたい / そして声もそれなりの特徴を掴めた / 途中にでてくる色んな掛け声の意味を知りたいと思った等
	小道具 (2)	ものを使って踊るものもあった / 刀をもった人が一人

	見て話し合う (1)	見て踊って話し合うことは大切だと気づくことができました
	絆 (13)	ダンスをする友と友達と絆を深めることができた / 相手と心を通い合わせれば楽しくなると思いた / 友達と前より仲よくなった気がする / 皆で踊るフォークダンスを行うことで団結力が深まりました
音楽性 (84)	タイミグ (7)	タイミグを合わせるのが難しかった / 人が入れかわるタイミグやまわるタイミグをみんなと研究して踊ることができました / ダンスのタイミグが合わないときはふりを小さくすくすくすくすく等
	リズム (31)	リズムをとることが大切 / リズムのうって楽しく踊ることができた / リズムに合わせて遅れないようにすることが大切だと思いた / テンポと動きを合わせるために体でリズムを感じるものが大切だと感じました / 速いテンポなのでリズムをくずさずに踊るのが難しかったです
	テンポ (19)	日本音頭はリズムに合わせるのが大変等
	音楽 (23)	テンポがおそく覚えやすい / ゆっくりでやりづらい / テンポが速くリズムがあってもおもしろいからです / 途中でテンポがどんどん速くなる / カリンカというダンスですでもリズムがよく少しテンポが速いことが分かった等
		音楽がとてよかった / 和楽と洋楽と踊りを比べて速さが洋楽の方が速かった / ゆっくりした曲が日本のには多いと思いた / 他のは自分達の曲と曲想が違っていました / 音楽の特徴をとらえた動きを心がける / ロシアのダンスはどこか聞き覚えがあるが多かった等
	曲に合わせて踊る (4)	工夫して曲に合わせて楽しく踊りたい / ステップは曲に合わせるやりやすい / 音と踊りがあわなくて苦戦した
興味 (12)	興味 (12)	日本の踊りを感じて踊ってみたい / 他のも踊りもしてみたい / 外国風や日本風のフォークダンスを調べてみたい / 今までは練習したこと以外のダンスや日本の踊りも踊ってみたい / 前まではフォークダンスを踊る機会あまりなかったけど、今回の授業で興味をもつことができた等
抱負 (2)	抱負 (2)	本番 / 明日が本番でがんばりたいです
難易度 (45)	簡単 (7)	「フォークダンス」ときいて難しそうだと感じたけどけっこう簡単で楽しかった / 簡単なふりつづけたからみんな楽しんで楽しことができた / 意外と簡単だった
	自然と動ける (2)	動きが分からない時も自然と体が動き楽しく踊ることができまいた / 動きが分からなくても楽しんで踊れば自然と踊れました
	踊りやすい (2)	ジェンカとタタロチカがおどりがやすかった / 外国のフォークダンスが私には合っていると感じました
	分かりやすい (1)	民族の踊りは分かりやすい
	難しい (33)	単純のようであり難しい / 日本のは手の動きが複雑で難しかった / 足の動きが意外と難しかった / 途中でペアになって踊るところが難しい / リズムのとり方がダンスだと難しかった (日本音頭) / タイミグであわすことが難しい等
	大変 (1)	ジェンカはつながってやると大変だった
調べる (21)	インターネット検索の成果 (18)	インターネットで色々な国のフォークダンスを知れた / いろいろなダンスを調べて良さを見つける事ができました / ユーチューブでいろいろなダンスを見た等
	調べたのが違う (1)	調べたのと知っているのが違ったのがあった
	キーワード (2)	「すごい」というのでやばいのがあって面白そうでした / 「十億人が泣いた」というのでいっぱい出てきてすごいと思いた

れる。例えば、「明日が本番でがんばりたいです」(抱負の小因子)の記述がみられた。

大因子である難易度(n=45)は、簡単、自然と動ける、踊りやすい、分かりやすい、難しい、大変の小因子で構成された。例えば、「『フォークダンス』ときいて難しそうだと感じたけどけっこう簡単で楽しかった」(簡単の小因子)、「動きが分からない時も自然と体が動き楽しく踊ることができました」(自然と動けるの小因子)、「ジェンカとタタロチカがおどりやすかった」(踊りやすいの小因子)等の肯定的な記述がみられた。一方で、「日本のは手の動きが複雑で難しかった」(難しいの小因子)、「途中でペアになって踊るところが難しい/リズムのとり方がダンスだと難しかった(日本音頭)」(難しいの小因子)、「ジェンカはつながってやると大変だった」(大変の小因子)等の否定的な記述もみられた。

大因子である調べる(n=21)は、インターネット検索の成果、調べたのが違う、キーワードの小因子で構成される。例えば、「インターネットで色々な国のフォークダンスを知れた」(インターネット検索の成果)、「ユーチューブでいろんなダンスを見た」(インターネット検索の成果)、「『十億人が泣いた』というのでいっぱい出てきてすごいと思いました」(キーワードの小因子)の記述がみられた。大因子である決定(n=28)は、踊るもの決定の小因子で構成された。「グループ内で何を踊るか決められた」(踊るもの決定の小因子)、「アイヌ民族舞踊に決定」(踊るもの決定の小因子)の記述がみられた。大因子である見て踊る(n=5)は、映像を見て踊る、スコア誌をみても踊るの小因子で構成された。「映像を見て少しずつ踊ることができた」(映像を見て踊るの小因子)の記述がみられた。

大因子である練習(n=28)は、練習、前より上手くなるの小因子で構成される。「練習の積み重ねを大切にしていきたいです」(練習の小因子)、「今回は踊りの細かい所を中心に練習できた」(練習の小因子)、「日本のダンスを前より上手く踊ることができました」(前より上手くなるの小因子)の記述がみられた。

大因子である発表・達成(n=56)は、発表、できばえ、やりがい達成感の小因子で構成された。例えば、「全体での発表では練習の成果を発揮した」(発表の小因子)、「ダンスはほとんど完璧に踊ることができました」(できばえの小因子)、「特にペアがかわるところや手や足の動かし方が上手くなりました」(できばえの小因子)、「今までフォークダンスを続けてきてやりがいを感じました」(やりがい・達成感の小因子)の記述がみられた。

大因子である鑑賞(n=5)は、鑑賞の小因子で構成される。例えば、「相手グループの踊りの特徴を踏まえながら見るすることができました」(鑑賞の小因子)の記述が

みられた。

大因子である応援(n=6)は、手拍子や声で応援の小因子で構成された。例えば、「他のグループ発表でも手拍子などして盛り上げることができました」(手拍子や声で応援の小因子)の記述がみられた。大因子である体験(n=2)は、いつもと違う体験、実施と発見の小因子で構成された。「普段やらないことをやってみるのが楽しかった」(いつもと違う体験)、「見て学ぶだけでなくやることで新たな発見がみつけられました」(実施と発見)の記述がみられた。大因子である復習(n=1)は、今までやったもののふり返りの小因子で構成された。「ウォーミングアップではみんなで楽しみながら今までやってきたことを振り返ることができました」(今までやったもののふり返りの小因子)の記述がみられた。大因子である合図(n=2)は、合図の小因子で構成された。例えば、「合図が必要」(合図の小因子)の記述がみられた。大因子であるかけ声や小道具(n=7)は、大きな声や音、小道具の小因子で構成された。例えば、「声を出して楽しく踊りたい」(大きな声や音の小因子)、「ものを使って踊るものもあった」(小道具の小因子)の記述がみられた。

4. 考察

4-1. フォークダンスの特性との関連について

フォークダンスは各国や地域特有の踊りの特徴を踊って楽しみ、外国や地域の文化的背景を理解することを目指す領域である。本研究においても、多様性・文化の大因子に関する記述量が最も多く(n=162)、その記述内容から、学習者は、踊りの多様性や、踊りの特徴、踊りの独自性、文化に裏打ちされた踊りの奥深さに気づいたことが明らかとなった。また、踊りを通じて文化を知ることについても記述がみられ、学習者は踊りを媒介として他文化を知ることができることに、体験を通して気づいたことが分かった。特に本研究では、単元計画において意図的に外国のフォークダンスと日本のフォークダンス(民踊)を取り上げ、その特徴の差異を体験できるように計画したが、本大因子内の外国のと日本のとの特徴の違いの小因子に多くの記述がみられたように、その意図が効果的であったことが分かる。また、本大因子内に日本らしさの小因子がみられたことから、普段触れる機会の少ない日本のフォークダンス(民踊)を行うことで、踊りに内包される自国である日本の文化的な味わいを意識できたことが分かる。戦後の学習指導要領のダンス領域の編纂に関わり、現在のダンス領域の基礎を造った松本千代栄はインタビューにおいて「創造と伝承というものは双壁であるということ、そこに『民踊』という言葉を入れたのは、やはり自分達は日本人だ、日本の土着に

生まれ育ったものにふれる必要があるのではないか」(菱田・岩川, 2012, p.69)と日本のフォークダンス(民踊)を取り扱う重要性について言及した。本研究において日本のフォークダンス(民踊)を取り上げ、その文化的な特徴を学習者が踊りを通じて体験できたことは大きな意義を持つことであると考ええる。以上のことから、本研究実践において、学習者は踊りを通じて外国や地域の文化的背景を意識できたことが明らかとなった。さらに、多様性・文化の大因子の中に踊りの由来の小因子があり、これについて知りたいと学習記述したことから、学習指導要領に「風土や風習、歴史などの踊りの由来を理解して踊りの特徴を捉える」ことが望ましいと記載があるが、これに関しては本研究実践において十分には行えなかったことが挙げられる。本研究において、学習者が参照できるこれらの資料が不十分であり、また、インターネット上で見つかる情報の中にもこれらに関する記述が少なく、学習者が十分理解できなかったことが推察できる。渡辺(2015)は日本のフォークダンス(民踊)を教材として効果的に扱う為の課題のひとつとして、フォークダンスの由来も含めたデータベースを作成し適用することを挙げているが、本研究実践において、この課題について到達できなかったことが考えられる。

次に動き(n=73)、動きの特徴(n=4)、隊形・パートナーチェンジ(n=20)といった動きに関する大因子が明らかとなったことについてである。動きの大因子内に動きが複雑、手の動き、手や足の動き、ステップが多い、動きの違い、感じの違いの小因子が明らかとなり、学習者は動きの複雑さや手や足の動きが多いこと、各フォークダンスによって動きや感じが違うことに気づいたことが明らかとなった。さらに隊形・パートナーチェンジ(n=20)の大因子により、動きの特徴だけでなく、フォークダンス特有の形式についても学習者は気づいたことが明らかとなった。このことから、学習者は学習指導要領のフォークダンスの特性として記載してある「踊り方の特徴を捉えること」ができたと考察できる。それに加え、学習指導要領では、「音楽に合わせて特徴的なステップや動きで踊る」ことをその特性として述べている。これに関して、本研究では、音楽性(n=84)の大因子が明らかとなり、学習者はタイミング、リズム、テンポといった音楽の各要素を踊ることを通じて意識でき、曲に合わせて踊ることを意識し、また、音楽の特徴そのものについても気づくことができたことが明らかとなった。このことから学習者は音楽と踊りの関係や音楽の特徴や独自性にも気づき、この特徴に沿った活動を行えたことが明らかとなった。

4-2. 自主的なグループ活動としてのフォークダンスの単元の捉え方

本研究の対象である授業では、インターネットを用いて踊るフォークダンスを決定し、自分達で練習を行い仕上げ、グループ活動を中心とした学習者の自主的活動であり、また、発表会の前に兄弟チームでの見せ合いとアドバイスの活動を行ったことが特色であった。本研究において、協力・協働の大因子(n=139)、協力・チームワーク、交流の小因子が明らかとなり、学習者は活動で協力できたことを肯定的に捉え、チームワークの大切さに気づいたことが明らかとなった。また、協働、役割分担の小因子も明らかとなり、学習者は活動を進めていく上で意見や考えを出し合って協力して活動を進めていくこと、グループ内での役割を意識して活動を行うことを意識できたことが明らかとなった。また、教え合い、他者のいい所の小因子も明らかとなり、他者や他のグループからのアドバイスを元に課題や改善点をみつけること、他のグループの踊りの工夫やいい所をみつけることを意識しその効果に気づいたことが明らかとなった。さらに、そろそろ達成感、合わせて踊る、絆の小因子が明らかとなり、一緒に合わせて踊ること自体を楽しみ、一体感や団結力を感じたことが明らかとなった。さらに、動きの留意点(n=67)の大因子、こつ・留意点、課題・改善点の小因子が明らかとなったが、学習者は踊りの自主的学習の中でより上手になるための動きの留意点を意識したり、試しに踊ってみることや他者からのアドバイス、映像を通じての自己観察を通じて課題や改善点に気づくことができたことが明らかとなった。自主的学習において、課題や改善点が見つけれない学習が停滞するが、学習者はお互いの学び合い活動や動きの自己観察によってこれらを明確にし、充実した学習が行えたことが推察できる。

また、大因子として明らかとなった、覚える(n=67)、調べる(n=21)、決定(n=28)、見て踊る(n=5)、練習(n=28)、発表・達成(n=56)、鑑賞(n=5)から分かるように、これらの活動が明確な意識下で行えたことが明らかとなった。覚えることに若干の難しさを感じた学習者もいたが、これらの活動を楽しく簡単、難しいが克服できる課題だと捉えた記述も多くあった。また、自分達で調べ、決定し、見て踊ることが成功裏に実施でき、人前で発表するという最終目標に向けて、努力して練習する、発表後にはせきばえを確認しやりがいを感じる、これら有機的な活動によって、自主的な協働学習が上手くいったと考えられる。

4-3. フォークダンスの学習に対する心理的な受け止め方

また、心理的側面に関しては、情意(n=64)の難易

度 (n=45), 興味 (n=64) の大因子が明らかとなった。情意の大因子の中に楽しい, 笑顔, 面白いの小因子みられ, 肯定的な記述数は計 58 であった。一方で緊張・不安の否定的な小因子での記述数は計 6 であり, 学習者はおおむね本フォークダンスの活動を好意的に捉えたことが明らかとなった。難易度の大因子の中に簡単, 自然と踊れるの小因子がみられ, 難易度が低いと捉えた記述数は 12 であった。一方で難しい, 大変の小因子もみられ, 難易度が高いと捉えた記述は 34 であった。このことから, 学習者はフォークダンスの活動に難しさを感じたことが明らかとなった。しかし, その記述内容をみると, 「日本のは手の動きが複雑で難しかった」, 「足の動きが意外と難しかった」等, 動きの特徴や課題を示すと解釈される記述が大多数であり, 学習の進行に従って解決される範囲の難しさであるとも推察できる。また, 他の班の選択したフォークダンスの発表を観ることで, 興味が湧き, 他のダンスについても踊って見たいと感じたことが明らかとなった。

5. 結語

本研究は中学校 1 年生のフォークダンスの活動を対象とし, ふきだし法を用いた学習者の自由記述の内容を分析した研究であるが, 分析の結果, 以下のことが明らかとなった。本研究において, 多様性・文化の大因子が明らかとなり, その記述内容から, 学習者は, フォークダンスの特性である踊りの多様性や, 踊りの特徴, 文化に裏打ちされた踊りの奥深さに気づき, また, 日本のフォークダンスを外国のフォークダンスと共に取り上げたことから, その差異や日本の踊りの文化的な味わいや特徴を意識できたことが明らかとなった。また, 自主的なグループ活動や教え合いを中心としたフォークダンスの单元化は, ダンスの学習を通じた協力や協働を生み, 役割意識や他者の発表やアドバイスによって学び合うことのできる有機的な活動として学習者は認識したことが明らかとなった。さらに情意面においても大多数の学習者が好意的に受け止め, いくつかの点で難しいと認識しながらも活動を進めたことが明らかとなった。

本研究の課題として, 対象者の数が 36 名でありそれほど多くなかった為, より多くの対象者を研究の対象とすることが挙げられる。また, 今回の研究の信頼性・妥当性の担保としてメンバーチェックを用いたが, 本研究の信憑性を高めるために, 複数のダンス教育の専門家による分析の方が望ましいと考えられる。

付記: 本研究は秋田大学手形地区ヒトを対象とした研究倫理審査委員会の倫理審査を受け, 2017 年 5 月 19 日に認定 (第 29-3 号) の元実施しています。

謝辞: 本研究は秋田大学教育文化学部附属中学校, 保健体育教諭, 加賀谷武英先生が実践された授業でデータを採らせて頂きました。研究協力に感謝致します。

参考文献

- 浅川俊彦 (2000) 体ほぐしの観点からみた民俗舞踊の教育—「自分と向き合う」「他者と出逢う」—. 日本体育学会第 51 回大会大会号: 498.
- 安藤正樹 (2006) 西馬音内盆通りに関する一考察 (2). 尚絅学院大学紀要 52: 157-167.
- 亀岡正睦 (1992) 「ふきだし法」による子への対応に関する研究 I. 日本数学教育学会会誌, 74 (4): 87-93.
- 亀岡正睦 (1996) 「ふきだし法」による指導と評価の一体化に関する研究. 日本数学教育学会会誌, 78 (10): 297-302.
- 亀岡正睦・神保男児 (2012) 算数科におけるメタ認知形成方略としての「ふきだし法」に関する研究 (1). 文教大学臨床心理学研究報告, 5: 25-35.
- 金城光子 (1975) 舞踊の鑑賞構造に関する研究 3: 琉球舞踊の認知構造. 琉球大学紀要第二部, 18: 41-60.
- 国枝タカ子 (2005) 小学校における民俗舞踊のカリキュラムの全国調査. 日本学術会議文化人類学・民俗学研究連絡委員会編, 舞踊と身体表現, 日本学術協力財団, pp.199-225.
- 林信恵・北島順子 (2000) ダンスの授業における楽しさを規定する要因—学習者と教師の認知—. 大阪体育大学紀要, 31: 77-86.
- 菱田隆昭・岩川真紀 (2012) 「民踊」の学校教育への導入について—戦後教育改革期の「学習指導要領」を中心として—. こども教育宝仙大学紀要 3: 67-74.
- 池田雅子 (1991) フォークダンス・社交ダンスの指導. 舞踊教育研究会編, 舞踊教育学概論, 大修館書店, pp.206-209.
- 松本奈緒 (2010a) ダンス領域を教える上で, 授業のポイントとは何か—中学校でのダンス必修化によせて—. 保健体育ジャーナル, 91: 1-4, 学研教育みらい: 東京.
- 松本奈緒 (2010b) デジタルコンテンツを活用した秋田の盆踊りの学習—モーションキャプチャー技術を応用した DVD を用いて—. 秋田大学教育文化学部研究紀要教育科学編, 65: 57-65.
- 松本奈緒 (2012a) 秋田の盆通りの学習におけるデジタルコンテンツを用いた学習支援の効果と限界—モーションキャプチャー技術を応用した学習支援装置作成の試み—. 舞踊学, 34: 1-10.
- 松本奈緒 (2012b) 秋田の盆踊りの学習における学習者の認知研究—デジタルコンテンツを用いたダンス学習での自主的学習における学習者の認知の変化. 秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要, 34: 57-70.
- 松本奈緒 (2015) 中学校段階の体ほぐしの運動における学習者の概念形成—ふきだし法による自由記述とインタビューの分析を通して—. 体育科教育学研究, 31 (2): 1-15.
- 松本奈緒 (2016a) 学習資料を工夫したりズムダンスの授業における学習者の認知—動きのカードとキネクトによる動きの提示から—. 秋田大学教育文化学部紀要教育科学編, 71: 59-69.

松本奈緒（2016b）創作ダンスの熟練教師指導映像に対する学生の認知—大学院「教材開発論」の授業を通して—, 秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要, 38 : 59-66.

松本奈緒（2017）中学校段階のリズムダンスの授業における学習者の認知—カードとキネクトによる動きの提示とタブレット型 PC による動きの確認を工夫して—, 秋田大学教育文化学部紀要教育科学編, 72 : 111-.

松本奈緒・寺田潤（2013）男女必修化時代の中学校ダンス実施の現状と指導者の問題意識—秋田県中学校保健体育教諭のレポートを参考として—, 秋田大学教育文化学部紀要教育科学編, 68 : 25-34.

松下清子（2005）津軽の獅子舞・獅子踊り, 日本学術会議文化人類学・民俗学研究連絡委員会編, 舞踊と身体表現, 日本学術協力財団, pp.145-165.

文部科学省（2008）中学校学習指導要領解説保健体育編, 東山書房, 205P.

森下修次ら（2006）奈良県と津川村の盆通りと教育的意義, 新潟大学教育人間学部附属教育実践総合センター研究紀要教

育実践総合研究, 5 : 65-73.

中森孜郎（1990）日本の子どもに日本の踊りを, 大修館書店, 222P.

Rovegno, D. and Dolly, J. D. (2006) Constructivist perspectives on learning. The handbook of physical education, Kirk, D., McDonald, D. and O'Sullivan, M., Sage publishers, pp. 242-261.

Solomon, M. (2006) Learner cognition. The handbook of physical education, Kirk, D., McDonald, D. and O'Sullivan, M., Sage publishers, 2006, pp.226-241.

武田香奈子（2005）秋田県羽後町西馬音内盆踊りの変容, 秋大地理, 52 : 23-26.

渡辺律子（2015）学校体育におけるダンス教材について—フォークダンス教材を事例として—, 教育学部紀要（文教大学教育学部）, 49 : 169-176.

吉野巖・篠原宋弘・吉野典史・高坂康雅・工藤俊夫（2003）数学学習における「吹き出し法」のメタ認知的効果の検討, 北海道教育大学紀要教育科学編, 54（1） : 13-23.